

指標 医療逼迫度を重視

感染状況五つにレベル分け

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会は8日、感染状況を評価する新しい指標を決めた。従来は新規感染者数を重視して四つの「ステージ」に分けていたが、医療逼迫の状況に応じて五つの「レベル」に分けた。新規感染者数より医療が維持できているかを重視したのが特徴だ。

▼2面=判断、厳しい数値

都道府県が分析・判断

医療体制を重視したの
は、ワクチンの接種が広が
るなか、感染しても軽症で
済む人が増えたためだ。治
療の開発も進んでおり、
医療が逼迫しないレベルに
感染を抑えながら、日常生活
の回復をめざすことを目
的とした。

緊急事態宣言やまん延防
止等重点措置をとることを
想定するのは「レベル3」
(対策強化)。3週間後た
くに確実に「レベル2」(対
応不能)に上昇する目安は、
新規感染者数が50%超

レベル	状況	主な対策
4 対応不能	一般医療を大きく制限してもコロナへの対応ができない	<ul style="list-style-type: none"> 災害医療的な対応として各都道府県の支援、都道府県間の調整を 国民に医療の状況を周知
3 対策強化	一般医療を相当程度制限しなければコロナへの対応ができない	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の検討 病床の更なる確保、ワクチンや検査の集中的な実施 飲食店やイベントの人数・時間制限など
2 対策強化	新規感染者数の増加傾向がみられ、一般、コロナの医療の負荷が生じ始めているが対応できている	<ul style="list-style-type: none"> 保健所の体制強化 病床の段階的確保 オンライン診療の積極的な利用など
1 維持	安定的に一般医療が確保され、コロナの医療も対応できている	<ul style="list-style-type: none"> ワクチン接種率の向上、追加接種の実施 個人の基本的感染防止策 飲食店の第三者認証の促進など
0 感染者ゼロ	新規感染者数ゼロを維持できている	

レベル2から3への引き上げの目安
3週間後に確保病床数に到達、または
病床使用率や重症病床使用率が50%超

分科会決定

針を維持。病床使用率が50%未満、入院率や重症者数が改善傾向にあることなど

を考慮する。

もうとも深刻な「レベル4」(対応不能)は、一般医療を大きく制限しても新

型コロナに対応できない危機的な状態で、今夏の感染「第5波」に相当する。レベルの判断は新規感染者数や病床使用率などに加え、古瀬祐氣・京都大特定

准教授が開発した、1~4週間に必要となりそうな

病床数がわかる「予測ツール」(基準)がないと、対策を打つタイミングが遅くなるのではないか」と懸念が現れる。一方で、「新規感染者数が指標から消えたことについて」「明瞭なマルクマ

ル」などを活用して、都道府県が判断し、国と直々の連携をもととした目安は少ない。

従来のような具体的な数字をもとにした目安は少なくて、分科会では、人口10万人あたりの新規感染者数が指標から消えたこと

について、「明瞭なマルクマ」の意味も出たといい。専門家は意見で、「新規感染者数と医療逼迫の関係は、都道府県により大きく異なる」として、一律の目安を設けない」と理解を求めた。(子配佳代子)

時々刻々 レベル判断 乏しい数値

従来の指標と新指標の違い

ステージ	病床使用率 全体	入院率	10万人あたり 感染者数	陽性率 1週間の 新規感染者数	50%以上	50%以上
4 爆発的な 感染拡大	50%以上	25%以下	30人以上	10%以上	25人以上	50%以上
3 感染者の 急増	20%以上	40%以下	20人以上	5%以上	15人以上	
2 感染者の 新規						
1 新規的 発生						

レベル	目安
4 対応不能	明確な数値はなし
3 対応強化	3週間に後確実病床数に到達、または病床使用率や重症病床使用率が50%超
2 対応強化	従来の指標などをもとに各都道府県が具体的な数値を設定
1 対応	明確な数値はなし
0 対応済	新規感染者がゼロ

緩和後に感染増 各国対策手探り

世界を見ると、ワクチン接種が進んだ国にも、いまだに新たな感染拡大の波が押し寄せており、対策の模索も続いている。

英国は7月、人口の8割超を占めるイングランドでロックダウン（都市封鎖）の法的規制をほぼ解除し、「コロナとの共生」を進めている。だが、5月に一時、2千人を下回った1日の新規感染者数はデルタ株の広がりもあって急増。いまも3万～4万人台の高い水準が続く。

政府はワクチン接種により重症化をある程度、防げるとして、規制の再強化には慎重だ。ただ、死者数は少しずつ増えており、医療関係者からはマスク着用の義務化などを求める声も出ている。

一方、当初は厳しい行動規制で感染を抑え込んでいたシンガポールは8月、規制の緩和に踏み切った。ワクチン接種率は8割を超える。だが、9月から感染が拡大。病床使用率も上昇しており、9月下旬以降は再び規制を強めた。

政府は、現状ではワクチンの重症化予防効果は90%超ある一方、感染予防効果は40%ほどで、2回接種後の「ブレーカスルー感染」が多いとみてる。マスク着用は原則として義務化されているが、食堂やトイレなど、マスクを外して共同で使う場所が感染を媒介した可能性があるといふ。9月に高齢者から3回目接種を始め、再び規制緩和を進めたい考えだ。

（金成隆＝ロンドン、西村宏治）

医療逼迫に地域差予測へ「ツール」

新型コロナウイルス対策で、政府の分科会が新たに指標をつくりた。

指標をつくりた。

指標をつくりた。